



まつながたかお
松永孝男 議員
(富岳会)

第5次富士宮市総合計画の策定について

松永 富士山の世界遺産登録、2020年の東京オリンピックと、これからの10年は富士宮市の観光を大きく飛躍させる絶好のチャンスである。そこで、富士宮市民のほとんどが誇りに思っている、富士山、朝霧高原など北部地域の観光整備計画を伺う。

産業振興部長 第5次富士宮市総合計画や第3次観光基本計画では、9割以上の市民が誇りに感じている当市最大の観光資源である朝霧高原、東海自然歩道、富士山などの整備を進め、誘客を図っている。また、未来企画課が主体となり、北部地域の構成資産周辺に特産品販売所の整備などを検討し、北部地域の活性化を進めていく。

市長 当市における最大の観光地は朝霧高原を含む北部地域だと認識している。毎年の観光客数でも朝霧高原、田貫湖、白糸の滝の3エリアの合計で市全体の約半数を占めて

いる。朝霧高原はそこにいるだけで気持ちがいい素晴らしい場所であり、パラグライダーなどのスカイスポーツ、キャンプ場、東海自然歩道のウォーキング、天子ヶ岳や長者ヶ岳のトレッキングなどが楽しめるアウトドアの宝庫として東日本屈指のエリアである。富士宮市の発展は、富士山とその山麓の自然を生かしたスポーツ・レクリエーション観光都市として世界中の人々に訪れてもらうことだと夢に描いている。その実現に向けて、時代のニーズに合わせた観光資源の発掘や既存施設の充実に取り組み、国内・国外への情報発信を強化し、富士宮のファンを増やし、集客に努めていく。



▲朝霧高原の牛の放牧と富士山



すずきひろむ
鈴木弘 議員
(政経会)

地域の活力アップを目指して「地方創生」

鈴木 国の地方創生という政策に産業振興部はどうかかわるのか。

企画部長 国は、頑張っている自治体には頑張った分だけ支援すると言っている。国の新型交付金も視野に入れながら、富士宮市の強みを十分生かし、他に負けない魅力あるアイデアを産業振興部とともに練り上げていきたい。

鈴木 光ファイバーの未整備地域は今後どうするのか。

企画部長 インターネット接続は、光ファイバーだけでなく、高速の無線系を利用した通信回線整備など考察する必要がある。

鈴木 「小規模多機能自治(※)」の取り組みが地方創生に有効と考えるが、この研究はどうか。

市長 地方創生では地域コミュニティが果たす役割は非常に大きい。さらに住民がみずから考え、行動することは、協働の

まちづくりにおける原則。地域型支援センター、寄り合い処などとの関係も整理しつつ研究をしたい。

中部横断自動車道の富士宮市に及ぼす効果

鈴木 産業における効果は。

産業振興部長 中京圏と関東圏の中間に立地している優位性に加えて、新たな甲信地方へ効率的な物流ネットワークが構築されるため、市内企業の販路の拡大等、広域的な企業活動が期待される。

鈴木 観光における効果は。

産業振興部長 富士山静岡空港から新清水ジャンクションを通り、山梨の宿泊地を経由して東京に向かうツアーバスを増やす。朝霧エリアを中心とした国道139号沿いの魅力を高めることが重要。



中部横断自動車道と富士宮市との位置関係

※小規模多機能自治=人口減少と少子高齢化が進む中、さまざまな世代が「地縁」によるつながりをもとに連携し、自ら地域課題の解決を目指す「課題解決型の住民自治」のことをいう。